

中大技術士会

ニュースレターvol.16

会員の皆様へ

残暑お見舞い申し上げます。皆様、いかがおすごしでしょうか。

このニュースレターは、会員相互の情報交換を目的に、会の活動内容や会員個人の様々な活動などについてお知らせするものです。本号では2012年5月～7月の活動内容、第8回定時総会のご報告、今後の活動計画のほか会員のエッセイなどをお届けします。

社会人はもちろんのこと、現役学生の一次試験合格者の会員も増え、当会の活動は活発になっています。ニュースレターをお読みいただき、是非、様々な活動にご参加ください。

また、当会では中央大学理工学部の全学科を対象として「技術士ガイダンス」を実施し、学生のみなさんに技術士への第一歩としての第一次試験受験を勧めています。「技術士第一次試験合格者から」のコーナーで、合格された方の体験記を掲載させていただいておりますので、是非、これから一次試験を受験される方は、参考にしてください。

当会では、会員の皆様からの投稿をお待ちしています。当会HP (<http://www.chuo-u-pej.org/>) から投稿用のフォームをダウンロードして、投稿してみてください。

それでは、ニュースレターをお楽しみください。

内 容	ページ
巻頭言	2 ページ
■ 「草創期から確立・成長期へ」：中大技術士会 副会長 藤森公彦	2 ページ
活動報告	3 ページ
■ 中央大学学会中大技術士会 第8回定時総会報告	3 ページ
■ 幹事会	4 ページ
■ CO2環境対策技術研究会	5 ページ
■ 「科学技術と倫理」講義	5 ページ
■ 部会報告	9 ページ
活動計画	9 ページ
■ CO2環境対策技術研究会活動計画	9 ページ
■ その他の活動計画	9 ページ
エッセイ	10 ページ
■ 「CO2環境対策技術研究会に参加して」：天羽寿枝さん	10 ページ
技術士第二次試験合格者から	11 ページ
■ 「文系出身者の飽くなき挑戦！」：伊藤俊郎さん	11 ページ
技術士第一次試験合格者から	13 ページ
■ 「不安からの出発」：山本直美さん	13 ページ

■ 草創期から確立・成長期へ：中大技術士会 副会長 藤森公彦（応用理学部門）

総会が無事終了し、いよいよ8年目の活動が始まるに際して、一言、会のあり方について述べさせていただきます。

過去8年間は草創期であり、大学との連携をどのように行うか、もがきながら模索するなか、会長、幹事長、幹事の方々の並々ならぬ努力により、大学との連携、支援の実を結び始めました。

具体的な連携支援の内容は、まず学生に対しては、「技術者の倫理」をテーマとした講義を会員の16名が講師となり、社会での実体験をもとに技術者としての倫理のあり方を熱弁しました。また、技術士の資格取得を進めるために5学科の教授の協力により「技術士ガイダンス」を実施することができました。今年は多くの学生が技術士1次試験を受験されることを期待しております。

教授の方々に対しては、各研究室の研究支援として大石教授の「CO2環境対策技術研究会」、国生教授の「太平洋ソーラー筏システム研究会」、中村教授の「ミミズロボット」の実用化支援を実施しました。

その他としては、理工白門祭・ホームカミングデーへの参加や中大法曹会、公認会計士会との連携を開始しています。

これからは、草創期から確立・成長期へと進むために、現在進行している連携・支援を着実に発展させ、まだ関連のない学科に広げるとともに、会員の皆さんからの新しい企画を提案していただき新たな連携・支援を行う必要があります。

新たな連携の一つとしては、学会の支部間の連携により産業界と大学を結びつける役割として、まず中大法曹会や公認会計士会などと連携し、「技術と法と経済」に関する勉強会を持ちたいと考えています。そのうえで、お互いの専門家としての強みを生かした活動を模索し、たとえば大学の知的財産ビジネス、M&A（企業の合併・買収）、ベンチャー企業応援などの将来へ向けた取り組みに発展させます。

以上の活動により、確立・成長期へと発展させるためには、会員の皆さんの協力なしでは、活動を進めることができません。

会の活動が大学のある東京中心となってしまうため、地方の会員の方の参加が難しい現状があります。しかし、できる限り会の活動内容等はホームページのニュースレターでお伝えするよう努力をしており、また、新たな情報があればメール等で提供するようにしております。

会員の皆さんは、それぞれ仕事を持ち社会で活躍されており、なかなか会のために時間を割くのが難しい方々です。それでも母校中央大学への愛校心による大学との連携・支援とともに技術士の活躍の場を広げることができる活動への協力を重ねてお願い申し上げます。

会員の皆様のご提案や各部会等に参加し活動されたい方は、幹事会（toiawase@chuo-u-pej.org）まで連絡いただきますようお願いいたします。



活動報告

■ 中央大学学員会中大技術士会 第8回定時総会報告

中大技術士会第8回定時総会を下記日程で開催しました。

日 時：2012年5月26日 13:30 開場 14:00 開会
場 所：中央大学理工学部後楽園キャンパス 5336号教室
出 席：30名
内 容：14:00～15:00 総会
15:30～16:30 特別講演
17:00～18:30 交流会

議事に先立ち、議長に藤森副会長、議事録署名人に小柳幹事、篠崎幹事を選出し、議事の審議に入りました。以下の各議案を審議し、すべての議案が承認されました。

議 題	第1号議案	平成23年度活動報告(案)に関する件	各担当幹事
	第2号議案	平成24年度活動計画(案)に関する件	各担当幹事
	第3号議案	平成23年度収支決算(案)に関する件	事務局
	第4号議案	平成24年度収支予算(案)に関する件	事務局



藤森副会長の議事進行



林幹事長の事務局報告

総会終了後、特別講演を行いました。演者と演題は以下の通りです。

演 者 中央大学理工学部電気電子情報
通信学科教授 橋本秀紀氏

演 題 「空間とロボットの融合を目指して
- 空間知能化 - 」

○ 17時より、会場を5号館地下に移動し、学員会本部、公認会計士会支部など多くの来賓の方々や理工学部長を始めとする各学科の先生方のご出席を頂き「懇親会」を盛大に挙行了しました。



橋本秀紀教授の講演の様子

■ 幹事会

本会では概ね月に1度幹事会を行い、各行事の計画や方針などについて話し合っています。通常、中央大学駿河台記念会館の学員会役員室か技術士会茸手第二ビルで行います。役員、幹事以外の会員の皆様にも参加していただけます。是非一度参加していただき、ご意見などお聞かせください。役員・幹事一同お待ちしております。下記に幹事会の内容を報告します。

行事名	開催日程	活動概要
平成 23 年度 第 7 回幹事会	1 月 27 日 (金) 18 : 30 ~ 20 : 00	<ul style="list-style-type: none"> ・総会で「部会」による活動が確認されたことを受け、各部会の活動報告、活動計画を幹事会で初めて確認することになり、各部会の活動について情報を共有することができるようになってきた。 ・「大学支援部会」から、12 月 1 日から開始された各学科のガイダンス予定が発表された。今年度から電気電子情報通信学科及び生命科学科のガイダンスが予定されている。 ・次年度の「技術者倫理」「科学技術と倫理」講座への講師派遣について講師の提案が確認された。 ・平成 23 年度技術士第一次試験合格者が発表され、今年度は各部門で昨年より合格者が大幅に低下していることが報告された。その中で、中大は 31 名の合格者を出した。
第 8 回幹事会	3 月 30 日 (金) 18 : 30 ~ 20 : 00	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 24 年度第 8 回定時総会を 5 月 26 日 (土) に開催することが決まった。 ・総会時の「特別講演」に、電気電子情報通信学科：橋本先生の登壇が快諾された。 ・CO2 環境対策技術研究会から研究会の案内があった。5 月 18 日東京ガス (株) (南千住) で行われる。詳細は HP に掲載すると共に会員宛にメールで配信し参加者を募ることにした。 ・H23 年度技術士第二次試験合格者が発表され、中大からは 61 名が合格した。(全大学 12 位、私大 4 位)
平成 24 年度 第 1 回幹事会	4 月 19 日 (木) 18 : 30 ~ 20 : 00	<ul style="list-style-type: none"> ・広報部会からニュースレター最新号発行について原稿の督促があった。 ・技術者倫理の講義が始まった。 ・平成 23 年度技術士第一次、第二次試験合格者から入会申し込みが多く届いている。事務処理の効率化について広報部会から提案があり、今後実行していく。
第 2 回幹事会	5 月 8 日 (火) 18 : 30 ~ 20 : 00	<ul style="list-style-type: none"> ・各部会から活動報告があった。 ・総会での各担当者を決定した。 ・各学科との協力事項について、状況の説明があった。

■ CO2環境対策研究会

本研究会は、地球規模の課題となっているCO₂対策について勉強しつつ、大学、企業等が持つCO₂対策に関係する技術の相互利用、或いは技術の移転や共同研究を円滑に進めることを目的としています。

なお、本研究会は8月から翌年の7月を1期としています。本号では前号（2012年5発行）以降の活動内容・予定を報告します。

なお、詳しい報告は当会HP（<http://www.chuo-u-pej.org/>）をご覧ください。

行事名	開催日程	活動概要
第13回研究会 参加者：見学会 25名 交流会 15名	H24年5月18日（金） 見学会 13：00～17：00 交流会 17：30～19：30	東京ガス「千住 Ei-WALK」見学 講演：「エネルギー・環境政策の見直しと東京ガスの地球温暖化対策」勝倉宏次郎氏
H23年度第7回幹事会 参加者：幹事 8名	H24年6月21日（木） 18：30～20：00	第13回研究会（東京ガス）の報告 第14回研究会の企画 東京都東部スラッジプラントを候補 話題提供：玉川幹事「商社マンとしての体験談」

■ 「科学技術と倫理」講義

当会では、中央大学理工学部1年生を対象とした「科学技術と倫理」の講義に2名の講師を派遣しています。今年も5月15日に加藤行勝幹事、5月22日に相澤謙次幹事が講義を行いました。本ニュースレターでは、相澤幹事より、講義の報告をします。

日時：2012年5月22日 18：00～19：30

場所：中央大学理工学部

参加者：講師 相澤謙次 支援 林智幸、藤森公彦、内藤賢一、篠崎博文
受講生 理工学部1年生 150名

目的：理工学部1年生を対象に「テーマ：科学技術倫理の今と昔」の講義を行う。

概要：講義50分、ディスカッション20分、試験20分で行った。

- ・用語の定義：「科学」「技術」「倫理」等について説明。
- ・日本における科学技術倫理の推移や変遷：戦後の復興から現代までの経済成長や社会情勢が背景にあることを、事例を紹介しながら解説。
- ・私自身の科学技術倫理との出会い：法制度のグローバル化の初期と同じ頃（16年前）に、米国の大学では「工学倫理」の講義が実施され（講義の目的、事例を紹介）日本の科学技術倫理は米国の影響が大きく、倫理規定なども米国のものを参考にしていることを説明。
- ・倫理観の醸成：五感で培い、良心に従ってジレンマを克服することを推奨。
- ・学生達への提言：「学ぶこと」、「世界、自分を見つめる」、「リスクマネジメントの事例と実施」、「聞き心地の良い言葉遣い」、「自然環境の修復、予防」、「先人の教訓を心に留める」などを提言。
- ・ディスカッション：「ジレンマの克服・解決と他者への思いやり」を副題として、「歩行者用信号の遵守」について意見交換。

試験：福島原発事故に関して、4つの設問（原子力発電について、事故直後の従業員の活動、事故直後の現場への指示、炉心溶融に関する保安院の発表）から一つを選び、科学技術倫理の観点から論文で意見を求めた。

感想：

- ・受講態度は、概ね良好で、迷惑を被ることはなかった。何人かは睡っていたようで、試験問題を聞いていなかった人がいたようである。
- ・科学技術倫理に対する理解度は、試験の論文から判断すればそれなりと思われる。
- ・歩行者用信号の遵守では、活発なディスカッションを期待したが、残念ながら指名した人以外の意見はなかった。講義に先立って、テーマを予告するべきであった。
- ・試験の論文では、全員がそれなりの意見を述べていた。いくつかの論文にはジレンマを書いた良いものもあった。原子力発電についての回答が最も多く、原発反対の意見が多かったが、原発を廃止した場合、地球温暖化のリスクに言及した論文を期待したが、残念ながら皆無であった。
- ・論文では、誤字の多いこと、字の下手なものが多かったことが気になった。ペンを正しく持てない人、書く姿勢の悪い人が目に付いた。

■ 部会報告

当会には総務部会、企画部会、広報部会及び大学支援部会の4つの部会があります。皆様、ともに活動しませんか？活動してみたい方は、幹事会（toiawase@chuo-u-pej.org）までお知らせください。

総務部会活動報告

項目	内容
総会・幹事会の開催、運営	第8回定時総会を後楽園キャンパス5333教室での開催運営 <ul style="list-style-type: none"> ・会員30名参加、白門化学クラブなどの来賓を迎えた。 ・電気電子情報通信学科：橋本先生による特別講演の準備 ・中大公認会計士会支部などの参加案内および懇親会の準備
名簿の管理、会計管理	<ul style="list-style-type: none"> ・志田幹事に新入会員の名簿追加を依頼、広報部会にML整備を依頼した。 ・5月18日現在、会員数は技術士182名、技術士補31名、準会員8名 ・7月10日、生命科学科：諏訪先生が準会員に入会。
学員会事務局との連絡調整	ホームカミングデーが10月28日(日)多摩キャンパスで行われる。企画部会から参加を申請した。 さらに「名刺広告」の出稿依頼がありこれも申請することにした。 出稿料は1万円である。(学員会からの支部活動援助金から支出する)
日本技術士会との連携	技術士ガイダンスを5学科で実施した。その際、一次試験受験申し込み書を700部依頼し、約500部学生に配布した。
他大学技術士会との連携等	この間、大学技術士会連絡協議会の活動はなかった。

企画部会報告

項目	内容
講演会の実施	下記の講演会を実施した。 日時：H24年5月26日（土）15:30～16:30 講師：中央大学理工学部電気電子情報工学科 橋本秀紀教授 講演：空間とロボットの融合を目指して 空間知能化
法曹会との連携	H24年5月17日（木）法曹会総会後の懇親会に中大技術士会会長、企画部会長が参加して、連携を深めた。 H24年5月26日（土）中大技術士会総会後の懇親会に法曹会代表を招いて懇談した。
公認会計士会との連携	H24年4月5日（木）に公認会計士会成田幹事長を訪問、連携の可能性打診（加藤、内藤） H24年5月26日（土）中大技術士会総会に公認会計士会会長、幹事長他を招待して懇談した。 H24年6月23日（土）公認会計士会総会後の懇親会に小林副会長と企画部会加藤氏が参加

広報部会活動報告

項目	内容
サーバー運営	会員名簿管理用のページメンテナンス ・「訂正画面」で会員資格「準会員」に修正できない不具合を修正した。 ・未登録会員抽出の条件見直し：申込区分「登録」を設け、既存会員の情報修正にも対応できるようにした。 新規入会者のM L登録
ニュースレターの発行	ニュースレターNo.15の発行
HP新規掲載	・ニュースレターNo.15の掲載 ・CO2環境対策研究会第13回研究会報告書掲載

大学支援部会報告

項目	内容
技術士ガイダンス	2月に各学科に実施した技術士ガイダンスに引き続き、技術士1次試験の受験申込書と説明会を下記の学科に約500部配布して実施した。 都市環境学科：6月12日（火）70名に配布 応用化学科：6月13日（水）（船造俊孝先生）50名に配布 電気電子情報通信学科： 6月14日（木）（橋本秀紀先生）3年生対象70名に配布 6月20日（水）（橋本秀紀先生）2年生対象130名に配布 生命科学科：6月15日（金）（箕浦高子先生）100名に配布 （小池先生）50名に配布 物理学科：6月19日（火）（杉本秀彦先生）3年生対象30名に配布

項目	内容
科学技術と倫理	1年生を対象に2コマの講義を下記の2名が担当し、学生に大変好評でした。相澤講師の報告は、前掲のとおり。 5月15日「製造業における品質保証と技術者倫理」講師 加藤行勝 5月22日「科学技術倫理の昔と今」講師 相澤謙次
技術者倫理	都市環境学科必須科目(4年生72名対象)を4月から7月において実施した。 講義の日程、講師、講義のテーマは次ページの一覧のとおり。 講義が2年目であり各講師は講義の要領を把握し、それぞれの実社会での経験を踏まえ分かりやすい講義となり、学生が社会に巣立つ前の講義として、大変意義のある講義となった。

技術者倫理講義内容一覧

回	月日	講師名	テーマ	キーワード
第1回	4月10日	国生剛治	「技術者倫理」講義について	授業構成・狙い、技術の役割、地球環境、公共事業、技術者の自己実現とは
第2回	4月17日	岩瀬暢男	技術論文と倫理	ミスコンダクト、ねつ造・改ざん・盗用、二重投稿、引用、知的財産、著作権、雑誌刊行
第3回	4月24日	藤森公彦	情報・データの捏造・改ざん	データの重要性、データ捏造・改ざん、技術者のあり方、
第4回	5月1日	小林 進	卒業後のキャリアを考える	技術者の役割、人財像、資格とキャリア、時間管理
第5回	5月8日	萩野太郎	失敗から学んだこと	試練や逆境を前向きにとらえ、どう取り組んでいくか。
第6回	5月15日	小柳拓央	町工場の経営者から見た企業倫理と技術者倫理	ものづくり 町工場経営 技術と技能 技術者倫理 企業倫理
第7回	5月22日	篠崎博文	技術者倫理と人間の身体	技術者倫理、病気、治療、生体力学
第8回	5月29日	内藤堅一	コンサルタント技術者の技術者倫理	技術者倫理、事故責任と法、かし担保、設計業務でのミス、計画業務でのジレンマ
第9回	6月5日	足立元良	コンサルタント業としての技術者倫理	建設コンサルタントの日本人的特徴と発注者との対応
第10回	6月12日	坂林和重	企業と技術者倫理	海外から入ってきた技術者倫理、経済産業界・世界での技術者倫理
第11回	6月19日	清水英樹	建設業における技術者倫理	建設技術者の役割と責務、建設業に関わる制度・法律、建設工事におけるQCDSE
第12回	6月26日	笹尾圭哉子	下水道の計画・設計における技術者倫理	公益の確保、具体的な方法としての技術者倫理
第13回	7月3日	小野塚喜代一	建設コンサルタントにおける技術士の役割	環境影響評価を通じた技術士の役割と、国土整備・維持管理の取り組み
第14回	7月10日	須田久美子	構造物の設計施工におけるトラブル対応	コンクリート構造物、鉄筋、品質管理
第15回	7月17日	林 知幸	官公庁向け物件の「美味」と「畏」	民間企業、技術開発、誇りと挫折、堀の上、景色はよいが？

活動計画

以下に今後の本会の活動計画をご案内します。皆様、奮ってご参加ください。

■ CO2 環境対策技術研究会活動計画

行事名	開催日程	活動概要
第3回報告会	H24年9月15日(土) 講演会 14:00~17:00 交流会 17:30~19:30	村上会長：レジ袋の減少とCO2の減少との関係 大石副会長：CO2吸収材の最新の研究動向 中尾幹事：電気事業の概要について 松本幹事：環境にやさしい駅づくり
第14回研究会	H24年9月21日(金) 見学会 13:00~17:00 交流会 17:30~19:30	東京都砂町水再生センター 東部スラッジプラント 交流会：「未定」

■ その他の活動計画

行事	日程	内容
中大技術士会主催講演会	2012年10月19日(金) 会場調整中	場所：中大理工学部 講師：生命科学科 原山教授 講演：バイオテクノロジーとは何か？
ホームカミングデイ (八王子本校)	2012年10月28日(日)	場所：八王子キャンパス 内容：無料相談会の実施
理工白門祭	2012年11月2日(金) ~4日(日)	場所：後楽園キャンパス 内容：理工白門祭出展
技術士ガイダンス	一次試験申し込み期間中	場所：中大理工学部 内容：一次試験受験に関するガイダンス(全学科を対象) ・受験申込書の書き方、試験概要 ・勉強方法、合格者からのメッセージ
中大技術士会主催講演会	2013年1月	講師：中央大学理工学部物理学科 杉本教授 講演：未定(講演は依頼済み)

上記以外にも、幹事会(ほぼ毎月開催)や多くの行事を開催します。また、「大学との折衝」「各学部との交渉」なども行います。会員の皆様にも気軽にご参加いただきたく、役員・幹事一同お待ちしております。

エッセイ

今回は、CO₂ 環境対策技術研究会に参加されている大塚製薬の天羽（あもう）さんより寄稿いただきましたのでご紹介いたします。

■ CO₂ 環境対策技術研究会に参加して：大塚製薬(株) 天羽寿枝（あもうとしえ）さん

中大技術士会の会員ではございませんが、CO₂ 環境対策技術研究会に、法人会員として参加しておりますご縁で、ニュースレターに寄稿させていただいております。

CO₂をはじめとする環境問題は、世界的な課題であり、弊社も事業活動の中で、環境負荷を減らすべく、様々な取り組みを行っておりますし、個人的にも、非常に興味のある分野でもあります。



天羽寿枝さん
（南千住の東京ガス屋上から）

本研究会には、これまで3度、参加し、電源開発(株)磯子火力発電所、東京たまエコセメント(株)、東京ガス(株)千住 Ei-Walk を見学しました。

製薬会社の生産部門で仕事をしていますが、これらの場所は、業務上でも、普段の生活でも、見る機会がないところで、非常に興味深いものでした。まったく異なる業態の設備や、最新の環境問題への取り組みを知ることは、とても刺激的でした。

まだ実用化できるかどうかはわかりませんが、見学の際に、弊社の生産活動に応用できそうなヒントを得ることもでき、弊社技術部門へ、情報提供したこともありました。このように、見学会自体は、もちろん興味深いのですが、その後の交流会で、参加されている皆様と、お話できる機会も、非常に貴重な経験となっています。

これまで参加した交流会では、私以外は、全て中央大学関係の方ばかりでした。技術士の皆様は、専門的な分野に詳しいのはもちろんですが、仕事にも趣味にも、アクティブに活動されている方々ばかりで、お話をきくと、見学会以上に（！？）新しく気づかされることがあり、自分の視野が広がっていくような気がします。

また、これまで参加した研究会はすべて関東地方でしたが、徳島から参加していると話すと、毎回、最寄り駅までエスコートしていただき、紳士的な皆様に、大変お世話になりました。

今後も、少しでもCO₂問題解決に貢献できるよう、引き続き参加させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

昨年度、技術士二次試験合格された伊藤俊郎さんから体験談を投稿いただきました。技術士試験受験の動機、勉強方法、技術士への熱い思い等について寄せていただいています。

■ 「文系出身者の飽くなき挑戦！」：伊藤俊郎（いとうとしろう）さん（環境部門）

1. 受験動機

私は、法学部政治学科の出身者です。「技術士(環境部門)」を受験した動機は、私が環境調査・分析・コンサルタント会社で、企画・コンサル業務を担当しており、文系出身者であっても業務上問題がないことを顧客が納得し、より安心して頂くために是非取得したいとの思いからでした。

これまで、公的資格は、「公害防止管理者(水質第1種)」、「土壤汚染調査技術管理者」を、また公的資格以外の資格としては「アスベスト診断士」、「生物分類技能検定(3級)」

などを取得し、土壤汚染、河川水質、アスベストなどの調査、解析及び評価業務に従事してまいりました。

しかし、顧客の担当者としてより安心を頂くためには、これらの資格だけでは十分ではないとの思いを払拭することができず、そのためには、科学技術の応用面に携わる技術者にとって最も権威ある国家試験である「技術士」の取得しかないと考え、受験に挑みました。



伊藤俊郎さん

2. 一次試験

一次試験は、平成17年に受験し、なんとか1回で通りました。勉強方法としては、適性科目を中心に、過去問を一通り解いたぐらいで、専門科目については特に何もしなかったと記憶します。適正科目の「技術者倫理」については、過去問や参考書が役に立ちました。

3. 二次試験

(1) 筆記試験

二次試験の筆記試験は、平成18年から6回受験しました。合格の兆しが見えてきたのは、心を入れなおし勉強し始めた4回目の受験からです。それまで必須科目、専門科目ともに「B評価」だったものが、この年より必須科目「A評価」となりました。これは、環境部門の必須科目がここ数年「第三次環境基本計画」に関する問題であり、自分なりの解答パターンが完成したことに因ります。しかし、専門科目は相変わらず「B評価」でした。これは、想定問題を3題程度しか用意しておらず、明らかに準備不足でした。

今年は父親の体調が優れず、父親が元気なうちに合格したいとの思いで更に勉強に励み、専門科目は想定問題を6題用意し試験に挑みました。

【終わってしまった・・・】

必須問題を開けた瞬間、「今年の受験も終わってしまった・・・」と思いました。なぜならば、ここ数年出題されていた「第三次環境基本計画」は出題されず、「グリーンイノベーション」に

出題が変わったためです。しかし、「ここでは絶対に終われない」との思いで、深呼吸をし平常心を保ちながら、題意に沿った回答を意識して、解答用紙3枚をなんとか書ききりました。今にして思えば、今年度は環境省の政策に限らず、経済産業省や文部科学省など広く環境政策に関する情報を収集していたことが功を奏したと感じます。

専門問題は想定した3題が出題されました。しかし、1題目にかなり力を入れ過ぎて時間配分を誤り、2題目を約1時間で書く破目になりました。

試験時間が終了した瞬間に「やはり今年も駄目か・・・」との思いに駆られ、山のような疲労感に襲われボロボロの状態です。帰路につきました。

ネットによる合否の確認は、論文の記述等でご指導を頂いた恩師の方々（社内の技術士）へ「不合格」の報告をするためのものでした。しかし、「受かっている・・・?????!」自分の受験番号を確認したとき、暫く時間が止まり放心状態に陥りました。

(2) 口答試験

上記のように、私は筆記試験の不出来から、今年も間違いなく「不合格」と思い、経験論文を殆ど作成しておりませんでした。このため、合格発表後、10日足らずで経験論文を作成することとなり、生きた心地がしませんでした。

口答試験の対策として、自分なりの想定問答集を作成し、技術士の恩師、上司の方々や妻に、口答試験の模擬試験の相手をお願いし、何度も何度も練習しました。この練習が、本番での「自信」に繋がり、本番では殆どあがることなく試験に臨むことができました。

(3) 合格発表

3月5日(月)官報により自分の名前を確認しました。受かったんだ……。暫く現実感が湧きませんでした。正気を取り戻し、真っ先に入院中の父親に合格の報告をしました。父親は、私の技術士合格を大変喜んでくれましたが、誠に残念ながら、その5日後に癌で他界しました。父親が生きている間に合格できたことが、なにより幸いです。

4. おわりに

今年、はれて技術士となることができ、中央大学技術士会に入会させて頂きました。5月26日(土)の第8回定時総会より参加させて頂きましたが、橋本教授の特別講演「空間とロボットの融合を目指して - 空間知能化 - 」はとても興味深く、「空間知能化」を理解することができました。

前述のとおり、私は土壌汚染や水質汚染等に関する業務に携わる環境部門の技術者ですが、中央大学技術士会の方々が、建設部門や上下水道部門他、様々な分野でご活躍されていることを知り、非常に心強く感じました。

今後は、技術士会が開催される講習会やシンポジウム等に参加させて頂き、また、何より諸先輩方との交流をさせて頂くことにより、幅広く技術的情報を収集し、技術の研鑽・習得を図りたいと思っております。そして、顧客の抱える環境問題の解決、改善へと繋げていきたいと強く思っております。

中央大学技術士会の皆様におかれましては、今後ともご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

技術士第一次試験合格者から

このコーナーでは、技術士一次試験合格者の方に受験の動機、勉強方法、技術士への思い等について書いていただきます。今回は応用化学科 4 年在学中の山本直美さんの体験談です。

■ 「不安からの出発」：山本直美（やまもとなおみ）さん

応用化学科 4 年在学中環境資源工学研究室（化学部門修習技術者）
技術士 1 次試験の受験は今まで何を学んできたか、これからどう生きていくかという迷いから脱却するきっかけになりました。



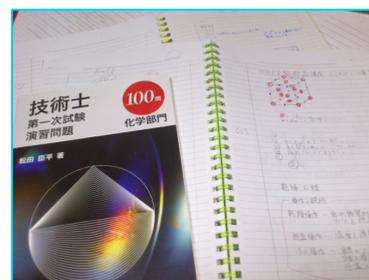
山本直美さん

1. 受験の動機

初めて技術士試験の存在を知ったのは 2 年次の冬でした。大学での成績が悪く、将来への焦りと不安もあり、中央大学という枠から出た自分ごどのような位置に居るのかを知りたいと思い受験を決意しました。技術士 1 次試験の合格率は 50%と聞いていたので、この試験が駄目だったら研究職を目指すことは諦めようと考えていました。

2. 試験にあたり

私が実際に試験のための勉強を始めたのは 8 月 31 日のことでした。専門科目の参考書を 1 冊だけ購入し、それ以外はインターネット上の情報で間に合わせました。試験当日は落ち着いて問題を解くように気を付けました。



繰り返し解いた問題集

3. 受験後

合格したとわかった時はとても嬉しかったです。また、試験のために勉強したことは勉強する習慣にもつながり、3 年次の後期の成績はそれ以前と比較して大きく伸びました。その結果大学院の推薦枠を取ることができたのは予想外の幸運でした。大学院で学び、社会に出た暁には世のため人のためになる研究者になりたいと思います。合格後は予想以上に多くの勉強会や懇談会が企画されていましたが、なかなかタイミングが合わず、先日ようやく第 14 回技術サロンに参加しました。そこで色々な方の話を聞き、その意識の高さに驚き、合格はゴールではなくスタートだと言うことを改めて実感しました。今後もこのような機会があれば積極的に参加し、見識を広げていきたいと思っています。

（公社）日本技術士会男女共同参画推進委員会主催の女性学生及び女性向け技術サロン

ニュースレターへのご意見、ご感想をお待ちしています。 toiawase@chuo-u-pej.org

2012 年 7 月号 中大技術士会 広報部会 発行
中大技術士会ホームページ：<http://www.chuo-u-pej.org/>